

認可地縁団体 高尾台町会 令和7年度 防災懇談会

(1丁目班) 議事録

日 時：令和7年10月11日(土) 9:30～12:00

場 所：高尾台町会1丁目内及び町会会館 1階 集会室

出席者：防災力強化活動組織1丁目班、ぼうさい高尾台有志及び執行部

当日参加者：23名

<議事内容>

・司会進行 副会長 杉森(1丁目)、総務委員 畠(記録)

・挨拶 会長 北、副会長 杉森(1丁目)

(要旨)

今朝はお忙しい中、安否確認訓練、防災勉強会に参加いただきありがとうございます。まずは皆様が防災に関しての意識を高めて頂き地域に反映して頂ければと思います。防災を考える事は地域の防犯対策にも繋がっていく事と思います。ぜひこの機会に地域の防災に目を向けていただき、一緒に勉強させていただきたいと思います。

(1) 安否確認訓練

・1丁目全町会員を対象に「安否確認タペストリー」の掲示を実施した。

成果 実施(掲示)結果⇒ 103世帯/290世帯 約36%

(2) 防災勉強会(講師：1丁目 上田大樹 防災士)

テーマ：災害に向き合う ～これまでの災害の学びから～

- ・自然災害に対する日頃の備えは万全であるかを考える。
- ・森本富樫断層の地震発生率の見直しがあった。30年以内の地震発生確率は2-8%。想定マグニチュードは7.2程度である。
- ・能登地震、各種豪雨、北陸豪雪が近年あった。高尾台も土地柄備えが必要。
- ・JPCZ(日本海寒帯気団収束帯)の紹介。
- ・ハザードマップについて。山川環状近辺に土砂災害の想定あり。高橋川に沿って浸水想定あり。

- ・各種（防災）マニュアルがあるので、活用すること。かなり詳しく防災の記載がされている。
- ・しかしハザードマップやマニュアルがあれば、必ず安心か？東日本大震災から考える。
- ・石巻市立大川小学校は海拔 12-13 メートル。津波によって校舎は倒壊。生徒はまず校庭に避難。その後、川の近くの避難場所（二次避難所）へ避難。二次避難所への避難中に川からの流水に巻き込まれる事態となり被害となった。「教師はハザードマップを見ていたのか？」、「当日情報は入っていたのか？」、「避難訓練はしていたのか？」それらの答えはすべてYESだった。学校まで津波は来ないというハザードマップとなっていた。二次避難所までの避難訓練は何度も実施していた。「これくらい〇〇だろう」、「落ち着けば大丈夫」、「これまで〇〇になったことはないから」、などの判断になってしまいがち（正常性バイアス）。思い込みを取っ払い、常識の向こうを想定すべき。
- ・今年8月の線状降水帯。ハザードマップの想定を超え、ひざ上まで浸水があった。特に他より少し低い場所は大変な被害となった。高尾台のハザードマップも浸水がない想定であるが、浸水を想定しておくべきと考える。
- ・ハザードマップやマニュアルの把握は最低限として必要。ただし、それ以上の事態が起こり得ることを念頭に置かなければいけない。
- ・他にも…避難経路を歩いてみる、家族の役割分担や連絡方法（非常用持ち出し袋の管理する人など）、普段から地域の人と話す、など日頃の備えを万全に。
- ・「キキクル（危険度分布）」アプリの紹介。警戒レベルを色別で表現。どう行動するかが把握できる。
- ・明日からどのようなことを心がけていくべきだと思ったか？

（意見交換）

- ・最近防災勉強会が少ない。勉強会に参加した方がいれば感想等聞きたい。
- ・ハザードマップについて、危険度が大きいものと小さいものといろいろある。何年に一回の被害想定か、段階別に存在する。
- ・8月の大雨について、1丁目（高尾台中学校の近く）で床下浸水あり。30-

40 センチの浸水であった。適量以上の雨が降ると側溝から水があふれてしまう。何十年に一度実際に起きている。今後も起きると思われる。20-30 年前に金沢市に側溝を広げてもらった箇所もあるが、改善していない模様。万願寺放水路が複雑となっている影響もある。

(3) 災害対策用資機材の紹介

- ・情報連絡用無線機の紹介
- ・発電機の紹介
- ・救急箱の紹介
- ・安否確認板の紹介
- ・災害用テントの紹介（令和7年度に2張り購入）
- ・キャリアカートの紹介（令和7年度に2台 購入）
- ・石油ストーブ、防寒用シート、非常食

(4) 非常用簡易トイレ等の紹介

- ・非常用簡易トイレについて動画鑑賞
- ・止水パネルについて動画鑑賞
- ・非常用簡易トイレ組み立て等実演

(5) 意見交換会・質疑応答

特になし

以上